

# むくのきだより 3月号

令和5年2月28日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

## 子供たちの思いをつなげて

園長 中村 美奈子

赤羽幼稚園の入り口に、ひな人形が飾られ、元気に登園してくる子供たちを見守っています。保育室の前には、子供たちが何日も掛けて作っているひな人形が並んでいます。桃の節句が近づき、春の訪れが待ち遠しい季節となりました。

今年になってから、少しずつ年長ゆり組の子供たちは小学校就学に向け準備をしています。赤羽小学校の1年生から「もうすぐいちねんせいのかい」に招待されて、教室の席に座らせてもらってお話を聞いたり、学校を案内してもらったりしました。一方、年少さくら組の子供たちに、もるくん(モルモット)やりこくん(カメ)のお世話、砂場前や靴箱の掃除、花や野菜の水やりを教えています。2月の誕生会の司会も、一緒にやりながら教えました。この1年間で、当番の仕事やみんなの前で話すことが上手になり、自信をつけた年長ゆり組の子供たち。教え方も丁寧で優しいです。年少さくら組の子供たちは、重要任務を引き継ぐことに緊張しつつ嬉しい様子です。こうして毎年、子供から子供へと引き継がれる経験が、それぞれを一段と成長させることにつながっていると感じます。

このような日々の中で、「一緒に過ごせるのは、あとちょっとだね。」「もうすぐ、お別れだね。」と教員が子供たちに声を掛けることが多くなっています。そして、お別れの行事も増えています。2月20日の「ひっこしまえのありがとうのかい」では、建て替えのために今年が最後となる園舎での生活を映像で振り返りました。また、2月21日の「お別れ遠足」では、年長ゆり組と年少さくら組の子供たちがペアで手をつなぎ、東京タワーに行きました。お別れの行事のときに、「さびしい気持ち」「かなしい気持ち」になって、涙ぐむ子供もいました。人と人との関わる中で、一緒にいると楽しい・嬉しいという経験が、人間関係を築く土台になると思っています。その上で、この別れがさびしい・かなしいという気持ちが、相手を思い、優しくする気持ち呼び起こし、よりよい人間関係を育むことにつながると考えます。「楽しい」だけでは、人は成長しないのです。子供のさびしい・かなしい気持ちを、大人として共感したり、明るい希望へと変換させたり、言葉や表情、態度で伝えていくことが大切だと思います。

年長ゆり組の子供たちが赤羽幼稚園を修了する日まで、あとわずかとなりました。一日一日を大切に、子供たちが互いに思う気持ちをつなぎ、過ごしていきたいと思っています。

